

アンケート回答&第6回会議のまとめ

課 題 等	対応策・あるべき姿
<ul style="list-style-type: none"> ・現在のライフスタイルが多様化しており、地域以外の居場所が多くなった。 ・地域活動に参画しない家庭は、地域行事に参加する意識が低い。 ・地域の伝統文化等は核家族化により世代を越えて引き継ぐことが厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親世代が地域参加・参画して有益である姿を見せること。 ・子どもにとって魅力ある企画の立案。(景品の配布等)、参加しやすい日程の調整 ・地域内での顔の見える関係づくり。 ・若い世代が使う情報発信手段の活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手不足(高齢化、新しい担い手が入らない) ・自治会離れによる地域活動への関心の低下。 ・地域内での活動目的等の共有の場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内での子どもの育ちに関する情報交換、意見交換の場が必要。 ・地域内でのコーディネーターとなる人材が欠かせない。 ・学校の地域学習の時間等で子どもの声を聴き、地域活動に活かす。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや親世代が忙しく、地域行事の優先順位が下がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある事業の立案。 ・情報発信手段の工夫。
<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ地域参加・参画が必要なのかの情報の共有ができていない。 ・親世代の価値観の多様化による、地域参加の意識の希薄化。 ・地域役員の負担感から負担感の少ないもの(レジャーや習い事)を選択している。 ・子どもの頃から社会教育施設に親しむ経験が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加・参画だけでなく、家族としての地域参加が望まれる。 ・参加・参画が強制にならないよう、子どもたちの意思が大切。 ・子どもたちがどのようなものを望むのか、声を聴くことが必要。 ・子どもが自分たちで考えたことが実現できる経験を公民館等のできる。 ・インターネットを介した参加など、地域参加の形態の見直し。 ・子どもが成長する過程で、または大人になった時に自分の学びや自分の居場所、困った時の頼り先を見つける際、地域の人を選択肢の一つになると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・習い事で子ども達が忙しく、子どもの地域への関心が薄れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が子どもに郷土愛を育むことを課題として認識し、地域事業等を計画立案されるべき。 ・地域と子どもが継続的に関わる機会が必要。学校のカリキュラム(総合学習の時間等)に交流の機会を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域事業に参加することはあるが、参画する機会はない状況。 	<p>学校の授業で地域の課題等を話し合う時間が作れると良い。(授業で難しい場合は地域から学校に働きかけることも必要)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに地域参加・参画する意義や目的、メリット等を大人が説明し、理解してもらう必要がある。 ・子どもたち自身が関与することで世の中が変わる体験の場が必要。 	<p>「主権者教育」を社会教育施設の場を通して学芸員、司書、社会教育主事等が働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市の「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」事業のようにさまざまな地域資源を調査、研究、魅力の整理、活用等を図ることで地域愛を育む。 ・既存の地域団体でも新しい人が参加しやすい雰囲気づくりや配慮が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとあいさつが交わせる位の距離感が大切。 ・子どもたちのリアルな声を聴く機会が必要。 ・子どもやその親世代の声を地域に届けるために、公民館運営委員に公募枠や子ども枠を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手不足(高齢化、新しい担い手が入らない) ・情報が必要な人(若い世代等)に届いていない。 ・地域で子どもを育てるという意識の低下。 ・(コミュニティ・スクールが進む中で)地域の声を学校運営にどこまで反映できるかが課題 	<p>地域役員の負担感の軽減。イベントごとにサポーターを募集する等。できる人ができる時にできることをする仕組みづくりが必要。</p> <p>若い世代に向けた情報発信手段の工夫。行政から地域へ新しい情報発信手段の使い方の支援。</p> <p>学校の負担や教員の働き方改革との調整が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等はコロナ前にそのまま戻すのではなく、今のスタイルに合わせていく必要がある。 ・若い世代は団体に所属することや役員を煩わしいと感じている。 <p>学校の教員の負担について、地域も配慮が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的に自らやりたいことを考えて、進めていく。 ・例えば、地域内の人材バンク等のリストを作成し、学校に提供するなど。